

Biz 茶

CHA

ビジネスの現場で
活きる茶の心

05

新年を迎えるとき、人は「心を新たに」とよく言います。けれど、ただ気持ちを切り替えるだけでは、忙しい日常のなかでその決意もすぐに薄れてしまいがちです。そんなときこそ、茶道の精神に立ち返ってみると、ひとつの大切な教えに出会います。それが、「一座建立」の心です。

「一座建立」とは、亭主(もてなす人)と客が心をひとつにし、その場をかけがえのないものとして築き上げるという茶道の理想の在り方です。その瞬間に全力を尽くし、相手と真正面から向き合う。時間も空間も、まさに一期一会。この場を逃したら二度と同じものは訪れない、という覚悟のもとで茶会が行われます。

年の初めもまた、まさに「一座」に似ています。今日というこの日をどう迎えるか。それが、これからの一年をどんな心で積み



はじまりの 一服

— 新たな年に「整える」ということ

重ねていくかを象徴します。どんなに先が見えない時代でも、今ここに意識を向け、心を整え、場を整え、人と誠実に向き合う。その姿勢こそが、新たな一歩を踏み出す力になるのではないのでしょうか。

茶室では、亭主は朝早くから掃き清め、

道具を選び、炭を入れ、湯を沸かし、花を生けます。そのどれもが、客を想って行う準備です。つまり、茶会は、既に始まる前から「もてなし」が始まっているのです。ビジネスにおいても、新年の第一声や初出社、最初のメール一本が、その年の印象を決定づけます。「整えて迎える」ことは、信頼を築く第一歩でもあります。

新しい年、新しい出会い、新しい挑戦。それに向けて、ただ動き出すのではなく、まず「整える」ことから始めてみる。それは、目に見える準備だけでなく、目に見えない心配りや覚悟を含む「所作」の始まりです。

今年が皆さまにとって、心を豊かにする出会いと実り多き一年となりますように。そう願いながら、私もまた、一服のお茶を丁寧に着てる気持ちで、この一年に向き合っています。

伊住 宗陽

一般社団法人
茶道裏千家淡交会理事
株式会社淡交社
代表取締役社長

